

情報共有

非管理メモ

官邸直轄
NISA 総務課
官庁連絡室

H23.07.15① 議事メモ rev0.doc Last printed 7/15/2011 2:44:00 PM

3お

プラント状況 (本店レク) 議事メモ

日時：平成 23 年 7 月 15 日 (日) 11:00~11:40

場所：東京電力本館 3 階大会議室

先方：記者約 25 名 (カメラ 3 台)

当方：原子力・立地本部

原子力設備管理部

広報部

配布資料：

- ・ 福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ (7 月 15 日 6 時現在)
- ・ 集中廃棄物処理施設周辺サブドレン水核種分析結果 (7 月 15 日)
- ・ 滞留水処理分析結果シート
- ・ 発電所敷地内における空气中放射性物質の核種分析結果
- ・ 福島第一原子力発電所 3 号機原子炉格納容器への窒素封入に係るモニタリング結果 (空間線量率)

質疑

Q. 本日、4 号機原子炉ウエルへの注水を再開するとのことだが、ホースの状況と今後の復旧状況を詳しく教えてほしい。

A. 一昨日から、圧力容器の底部から原子炉ウエル、DS ピット、使用済燃料プールへ注水するラインのホースから漏水があり、二度注水を中断している。原因は調査中だが、ホースの加締部から 2 回漏水しており、ホースをカナフレックスから消防用ホースに交換し、原子炉ウエルから DS ピット、使用済燃料プールへ注水する予定である。

Q. 2 号機使用済燃料プールの温度が 40℃を超えたとのことだが、直近で最も温度が低かったのはいつか。またいつ頃から温度が上昇し始めたのか。

A. 確認させていただく。

Q. 2 号機使用済燃料プールの冷却塔に散水されていないことが温度上昇の原因とのことだが、詳しく教えてほしい。

A. 2 次系の冷却は、基本的に空冷だが、除熱能力を上げるためにエアフィンに散水し、空気冷却とともに、気化熱による冷却を促進している。現在、その散水が停止している可能性があるため、現場を調査している。温度は依然 40℃程度を維持しているので、今のところ急激に温度が上昇することはないと考えている。

Q. 本日 7 時現在のプロセス主建屋の水位が 6,058mm とのことだが、どこまで移送可能との認識か。

A. 建屋の水位は 6,058mm だが、O.P. としては O.P. 4841mm であり、原子力安全・保安院へ提出した報告書の通り、O.P. 5,600mm までは移送可能と考えているが、運用として O.P. 4950mm 前後でコントロールしていきたい。なお、水処理施設を本日 5 時 14 分から半日程度停止する関係で、2、3 号機からプロセス主建屋への移送を停止する。2 号機トレンチからの移送は本日 11 時 2 分、3 号機タービン建屋からの移送は 11 時 11 分に

一旦中断した。

Q. 水処理装置が本日 5 時 14 分から停止しているということだが、詳しく教えていただきたい。

A. ポンプの定格容量が低下した原因の調査と SARRY の設置工事に伴って制御盤の改修工事があるため停止する。ポンプの定格容量の低下の原因は、配管内にエア溜まりがあるのではないかと考えており、フラッシングを実施する予定。

Q. 今回の滞留水処理分析結果シートで、セシウム吸着装置とアレバの除染装置による処理濃度の結果は、これまでの結果と比較して、どのような評価か。

A. セシウム吸着装置と除染装置のセシウムの DF としては、以前は 10^6 オーダーだったが、今回は 10^5 オーダーであり、若干悪くなっている。しかしながら、淡水化処理装置までで 10^3 オーダーまで濃度を下げれば良く、また今回の結果は、 10^5 としても係数が 5.2、7.1 と高いため、性能が落ちているわけではないと考えている。

Q. 淡水化処理装置によって塩素濃度は 19ppm ということだが、参考までに海水とろ過水の塩素濃度を教えていただきたい。

A. 海水の塩素濃度は 14,000~20,000ppm である。ろ過水の塩素濃度については確認する。

Q. 4号機の使用済燃料プールへ建屋上部から注水するラインは使用しないのか。

A. 圧力容器底部から注水するラインを常用としており、建屋上部の燃料交換機に固定しているホースのラインはバックアップ用である。

Q. 冷却塔への散水は停止しているのか、それとも散水の量が減少しているのか。

A. 散水が停止していると考えており、それによって、冷却効率が下がっている。

Q. バッファタンクへ補給したろ過水の量はどれくらいか。

A. 確認中である。

Q. 処理水以外の水をバッファタンクへ加えるのは初めてか。

A. 初めてである。

Q. 2号機使用済燃料プールの温度上昇は昨日の何時時点から見られたのか。

A. 確認させていただく。

Q. 2号機使用済燃料プールの循環冷却に使用している冷却塔の不具合は、循環そのものは継続しているが、熱交換器がうまく機能していないために冷却が不十分になっているのか。

A. 冷却塔内のエアフィンに散水することで、除熱機能を向上させていたが、現在、その散水機能が停止している状況と考えている。現在原因を調査中。

Q. 水処理装置の定格流量が出ていない原因を調査することだが、具体的な作業内

容は、また本日何時まで作業を行うのか。

A. 調査としては既設建屋内に後から装置を設置しているので、配管引き回しについてはアップダウンがある。そこにエアだまりがあり、管の流路を狭めている可能性がある。そこで空気を配管外に押し出す作業を実施することを検討している。作業時間は本日14時までを予定している。

Q. 原子炉への注水は実施しているのか。

A. バッファタンクの処理水から原子炉への注水を実施している。

Q. バッファタンク水があるにも係わらず、ろ過水からも原子炉へ注水している理由は。

A. バッファタンク水位が低下してから補給するよりも、タンク水位を高め維持しておくことを目的に補給を行った。バッファタンクの水が少なくなったことで実施したということではない。

Q. 補給の発停水位はどの程度で制御しているのか。

A. 補給開始は高さ2.5m、補給停止は7mで設定している。

Q. バッファタンクの水位が低下したとのことだが、淡水化装置の運転状況は。

A. 運転状況は確認させていただく。なお、淡水化装置による処理は連続運転ではなくSPTの水位により間欠運転を行っている。

Q. 2号機使用済燃料プール循環冷却に使用している冷却塔が停止する際の設定温度は何度か。

A. 冷却塔はA系、B系の2系統あり、温度上昇が継続すればB系で冷却を行うことが可能。現在のプール温度は40℃程度であるため、散水の原因調査を進めているところ。

Q. 西澤社長が西日本への電力融通を検討しているとの報道があるが、実際に検討しているのか。

A. 西日本へ電力を融通するとの一部報道はあるが、当社としては、電力需給は非常に厳しいと見ており、引き続き節電をお願いしている状況である。仮に東電管内で気温が低く供給余力があり、西日本が猛暑で電力需給が逼迫した日があった場合、余力の範囲内で西日本側へ融通することを、その当日に判断することはいえると思うが、供給力そのものに余力があって融通できる状況にはない。

Q. 東電管内に自家発はどの程度あるのか。

A. 東電管内では自家発が約1,600万kWあるが、自家発は自家消費が基本であり当社側への供給力としてカウントできるのは約160万kWである。

以上